

子どもの居場所づくりに関する地域意見交換会（まとめ）

「(仮称) 杉並区子どもの居場所づくり基本方針」の策定に向けた検討の参考とするため、児童館の再編整備の対象となった施設のうち以下の地域において、参加者を公募しワークショップ形式による意見交換会を開催した。

1 対象地域

対象地域	再編の時期
① 阿佐谷南児童館（杉並第七小学校の周辺地域）	令和 6 年度
② 旧東原児童館（杉並第九小学校の周辺地域）	令和 2 年度
③ 旧西荻北児童館・旧善福寺児童館（桃井第三小学校、井荻小学校の周辺地域）	令和 4 年度
④ 旧下高井戸児童館（高井戸第三小学校の周辺地域）	令和 5 年度

2 実施日

- 令和 6 年 3 月 16 日～3 月 21 日

3 テーマ

- 児童館再編の取組について地域の視点から感じたこと（良いと思う点、課題と感ずる点など）
- 今後どのような子どもの居場所づくりが必要と考えるか

4 進行等

- ワークショップのゴール
 - ① 子どもの居場所づくり基本方針策定に向けた、区取組を知る
 - ② 今後の子ども居場所づくりについて、自身の意見を伝え、他の方の意見を聞く
 - ③ 今後の子どもの居場所づくりについて、多様な意見やアイデアが出ている
- 進行
 - ① 児童館再編の取組、取組の検証及び基本方針について区から説明
 - ② 3～4 名のグループに分かれて意見交換
 - 【グループワーク①】
 - 児童館再編の取組について地域の視点から感じたこと(良いと思う点、課題と感ずる点など)
 - 【全体ワーク】
 - 各グループで出された意見の全体共有
 - 【グループワーク②】
 - 地域に今後どのような子どもの居場所が必要と考えるか
 - 子どもの居場所に必要な要素や条件について
 - 【全体ワーク】
 - 各グループで出された意見の全体共有

5 実施概要（主な意見等）

① 阿佐谷南児童館（杉並第七小学校の周辺地域）

日時：令和6年3月16日（土）14時～16時 会場：杉並区役所会議室 参加者：区民8名

【児童館再編の取組について地域の視点から感じたこと】

- ・ 異年齢で育つことにより得られるものがあるのに、現在、年齢による分断が起こってしまっていると感じている。
- ・ 同じ学校の友達だけではなく、異なる学校、異学年の子と交流できる場所を残して欲しかった。
- ・ プラザを利用する時、部屋ごとに年齢が決められていて、ルールが厳しく、自由に遊びにくい。
- ・ 児童館では、スキルのある職員がいてくれたので、ルールが厳しくなくても、気持ちよく遊ぶことが出来た。
- ・ 児童館では障害のある子や外国籍の子ども達とも交流が出来て良かった。
- ・ 児童館はいつも大人がいる。対応してくれる大人がいることは大きい。
- ・ 児童館では、自分たちでルールを決めて遊んでいる。それが出来なくなるのが残念。
- ・ 学校の先生とは別の職員が放課後等居場所事業を行うため、多少は切り替えることが出来ると思う。

【地域に今後どのような子どもの居場所が必要と考えるか／子どもの居場所に必要な要素や条件について】

○ 居場所について

- ・ 室内版の公園のような居場所(予約なし、フリー利用)
- ・ 横割りではなく、縦割りの居場所、それぞれ幼少期から大人まで
- ・ 雨天時に子どもが伸び伸び遊べる広い場所
- ・ 貧困世帯に限られない子ども食堂
- ・ 子どもが体調を崩しても、預かってもらえる場（病児保育）
- ・ 小中校生だけでなく、大学生、高齢者など様々な人が参画する場
- ・ 自分のペースで学べるフリースクール的な場所
- ・ 拠点方式ではなく、生活圏内の色々な地域で空き家となっている場所を使った小さな居場所を設ける
- ・ 0～18歳まで集まれる場（他の学校、地域、私立、障害のある子、乳児・幼児、ボランティアの高校生・大学生）
- ・ サロンのような場（自由に出たり入ったり、待ち合わせしたり、じっくり遊んだり）
- ・ 学校内児童館
- ・ 公園の中にカフェがあるといい
- ・ 体力を発散できる
- ・ 校庭開放
- ・ 雨天の日は体育館を利用料金のみで自由に開放して欲しい

○ 必要な要素や条件について

- ・ 0～18歳向けに対応できる職員
- ・ 子どもの気持ちを理解できる大人＝職員がいること
- ・ 小さいころから親も子も知っている場

- ・ 大きな声を自由に出せること
- ・ 子どもが選べること（学校内、学校外かなど）
- ・ 自由度（自由に入出入り、自由な交友関係、自分たちを尊重してくれる、自由に身体を動かせる）
- ・ 子どもや親が生活圏の中で行けること
- ・ 多様性（異年齢、障害、他地域）
- ・ 大人の管理下ではなく、子どもが主体的に自分たちでルールを決めて使える場（空き家活用など）
- ・ 年齢、世代を超えて自由に集える場所（近所の知り合いの所に行くように気楽に）
- ・ 地域の人の力を借りて行う（やりたいと言っている人たちはたくさんいるので、マッチングが大切）
- ・ インクルーシブであること（発達障害、言語など）
- ・ 安全であること（感染症、虐待）
- ・ 杉並の良さを残す
- ・ 他の学校の子どもとの交流
- ・ ある程度の裁量（ゲーム、お菓子を持ち込めるなど）
- ・ 子ども自身が決めることのできる場所
- ・ 冷暖房があるところ

② 旧東原児童館（杉並第九小学校の周辺地域）

日時：令和6年3月19日（火）18時～20時 会場：阿佐谷地域区民センター 参加者：区民14名

【児童館再編の取組について地域の視点から感じたこと】

- ・ 放課後等居場所事業は、私立に通う子どもや、保健室登校している子どもは利用しにくい。
- ・ 児童館から放課後等居場所事業となり、運営スタッフが変わって、安全重視でルールが厳しくなったと感じる。
- ・ 校庭開放が利用できたときは、土日にきょうだいで利用できるのがありがたかった。
- ・ 児童館は障害をもった子どもにも使いやすかった。
- ・ 放課後等居場所事業は、高学年になればなるほど利用しなくなる。
- ・ 乳幼児の保護者の中で。大人と話がしたい方にとって、プラザはいいところ。
- ・ 学童が学校内に移転することで、児童館内学童への移動の不安は解消された。
- ・ 学校内に学童クラブが移転する際の説明では、子どもたちのスペースは広くなると言われていたが、実際には校庭や体育館の利用は制限があり、使用できていない。
- ・ 学校の先生や親以外の大人がいる場所、異年齢の交流ができる場所、アクティブでない子や児童館に来られない子のための場所など、色々な居場所を選択できることが必要。
- ・ 児童館では自由に工作できたが、放課後等居場所事業では、全てかキット化されており、子どもの自由な発想が生まれる工夫がない。
- ・ 児童館には、子ども対応の専門家が配置されているが、放課後等居場所事業の職員にその専門性があるとは思えない。
- ・ 児童館にはゲームをもって、お菓子をもって、自転車で遊びに行くことができ、出入りも自由だったが、放課後等居場所事業ではそうではない。
- ・ 児童館、校庭開放がなくなり、子どもたちがボールで遊べる場が全くなくなってしまった。

- ・ 学校内に学童クラブができ、安全・安心という点ではよかった。

【地域に今後どのような子どもの居場所が必要と考えるか／子どもの居場所に必要な要素や条件について】

○ **居場所について**

- ・ 中高生向けに楽器が使えたり、ダンスができる場所又は専用の時間帯
- ・ 思いっきりボール遊びができる場所
- ・ 児童館、校庭開放を復活して欲しい
- ・ フリーWiFi
- ・ 自転車で集まってみんなでゲームができる居場所
- ・ おやつをみんなと分けて食べられる居場所
- ・ ゴロゴロできる場所
- ・ 宿泊できる場所
- ・ 工作、料理、火おこしができる場所
- ・ バスケットゴールがある場所
- ・ 大規模学童クラブの解消
- ・ おしゃべり可能な読書空間
- ・ 駄菓子や軽食をとれる店
- ・ 学習できる場所
- ・ 野外料理できる場所

○ **必要な要素や条件について**

- ・ 地域間で格差がないこと
- ・ 地域の活動は人員確保が難しいので、区職員による人的支援が必要
- ・ 地域の活動への補助金などの金銭的支援
- ・ 利用にお金がかからないこと
- ・ 子どもが選んで自由に出入りできること
- ・ 新しい体験ができること（剣玉、ヨーヨー、将棋、百人一首、長縄など）
- ・ 子どもの意見、要望が通ること
- ・ いい距離感に大人の目があること
- ・ 子どもの話し相手になれる大人、青年がいること
- ・ 管理的な大人がいないこと
- ・ 予約不要で、ふらっと立ち寄れること
- ・ 継続的に関わってくれる、信頼できる大人がいること
- ・ 学童クラブの子どもとそうでない子どもと一緒に遊べること
- ・ 異年齢で遊べること
- ・ 子どもたちが主役になれること
- ・ 学校に行きたくない、行けない子どもたちが行きやすい場所
- ・ 親が子育てなどを相談できる職員がいること
- ・ 子どもを中心に、保護者や地域の人が自然と支え合えること
- ・ 子ども同士の遊びをつなぐ大人がいること

- ・ 雨の日も暑い日も過ごせること
- ・ 兄弟姉妹で一緒に遊びにいけること
- ・ 徒歩圏内でいけること
- ・ 0～18歳が集えること

③ 旧善福寺・旧西荻北児童館（桃井第三小学校、井荻小学校の周辺地域）

日時：令和6年3月20日（祝）14時～16時 会場：西荻地域区民センター 参加者：区民12名

【児童館再編の取組について地域の視点から感じたこと】

- ・ 児童館では細かなルールが無く、特有の居心地の良さがあったが、プラザになって小学生と乳幼児のエリア分けがはっきりしたことで、上の子（小学生）と下の子（乳幼児）と一緒に過ごすことが難しくなるなど、使いづらさを感じる。
- ・ 中・高校生の居場所がなくなっていると感じる。コロナ禍を経て、家の中で活動を完結させてしまう子が多く、家から出なくなっている。
- ・ 児童館が学童の子で溢れており、一般来館の子から児童館が楽しくないとの声を聞く。
- ・ 児童館には世代を超えた縦のつながりがあったが、今は失われてしまっている。
- ・ 小学校低学年にとって、学校内学童クラブと放課後等居場所事業はよいが、高学年の求めているものとは異なる。
- ・ 乳幼児の行動範囲を考えるとプラザは遠い。
- ・ 児童館では地域の大人から、将棋、竹馬、百人一首を教わる機会があったが、委託になってからはなくなってしまった。
- ・ 不登校の子どもは、放課後等居場所事業を利用できない。
- ・ 平日夕方のプラザの乳幼児利用はごくわずかなので、ホールは小学生が利用できるようにして欲しい。
- ・ 学童クラブは部屋が狭く園庭も使えないので、週に数回、短時間でもよいので、プラザに連れて行って遊ばせて欲しい。
- ・ 小学生がプラザを利用すると、職員体制が足りないとの声があったが、そこは地域の人がボランティアでフォローすることができるのでは。
- ・ 子ども・子育てプラザで乳幼児が自由に使えるのは良いが、年齢が輪切りになってしまった。
- ・ 児童館には年齢の違う方々が集える良さがあった。
- ・ 子ども・子育てプラザは乳幼児親子にとってはとても良い施設。

【地域に今後どのような子どもの居場所が必要と考えるか／子どもの居場所に必要な要素や条件について】

○ 居場所について

- ・ ボールが使える公園
- ・ 子どもが走り回れる広さのある公園
- ・ 児童館（学童の子と違う子が一緒に遊べる）
- ・ 空き家の活用
- ・ 様々な体験ができる場所（農業体験、土いじり）
- ・ 色々な年代、人たちが声をかけあえる場所

- ・ 大学、高校、幼稚園の活用
- ・ 常設プレーパーク
- ・ 校庭開放の復活
- ・ ゆっくり本を読める部屋がある
- ・ 他の人の動きが見える場所（あこがれを持てる、見通しを持てる）
- ・ プラザの平日夕方のタイムシェア
- ・ 学童クラブは定員 50 人ぐらいが、こどもも安心して過ごせる
- ・ 遊具のある公園
- ・ 子ども食堂
- ・ 大人が笑って、楽しく過ごしている所
- **必要な要素や条件について**
- ・ 地域の方が活動する場所が確保されていること
- ・ プレーパークの予算のサポート
- ・ 中高生と年齢の近い大学生のいること
- ・ 午前中、乳幼児が親子でくつろげること
- ・ 自然と触れ合えること
- ・ おやつ持参でいつでも行けること
- ・ 自転車でいつでも行けること
- ・ 地域差がないこと
- ・ 子どものクリエイティブさを奪わないこと
- ・ 職員との適切な距離感が取れていること
- ・ セキュリティが確保されていること
- ・ 子どもと子どもをつなげる職員がいること（縦のつながりなど）
- ・ 小学生の徒歩圏内でいける場所にあること
- ・ 異年齢交流できる、0～18歳の誰でもがいられること
- ・ 小さくてもたくさん選択肢があること
- ・ 子どもが一人でいける場所にあること
- ・ ふらっと行っても、何も言われないこと
- ・ 音や大きな声を出しても注意されないこと
- ・ ルールが多すぎないこと
- ・ わくわくする、こどもが行きたいと思えること
- ・ 保護者同士がつながりあえること
- ・ 昔遊びを伝えてくれる大人がいること

④ 旧下高井戸児童館（高井戸第三小学校の周辺地域）

日時：令和6年3月21日（木）18時～20時 会場：下高井戸区民集会所 参加者：区民7名

【児童館再編の取組について地域の視点から感じたこと】

- ・ 時代の流れの中で、区が行ってきた再編整備は仕方のない政策であったと思う。
- ・ 学童クラブや放課後等居場所事業が学校内に入ったのは良かった。移動がないのは良いこと。
- ・ 児童館で発散できるかと考えると、手狭なため学校の校庭や体育館が使えるのは非常に良い。

- ・ 児童館は乳幼児親子にとって、午前中は良いが午後は使い辛い状況だった。
- ・ 子ども・子育てプラザとなり、一日中乳幼児親子が居られる場となったのは大きいこと。
- ・ 今の子どもは時間がタイトなため、施設を乳幼児親子が使える方が良い。
- ・ 保健室登校の子どもや給食だけ食べにくる子どもなど、学校に行きにくい子どもにとっては利用しにくくなったのではないか。
- ・ 児童館では多世代交流もできていたし、学校にいけない子の居場所にもなっていた。
- ・ 子ども・子育てプラザになったことによって、小・中・高校生の居場所がなくなってしまった。
- ・ 中高校生をどこで受け入れていくかが課題。
- ・ 区の政策は再編ありきで、反対の意見などは聞いてもらえない状況だった。

【地域に今後どのような子どもの居場所が必要と考えるか／子どもの居場所に必要な要素や条件について】

○ **居場所について**

- ・ 既にある施設（区民センターや集会所など）に中高生が集まれる場所を作るとよい
- ・ 既にある施設（児童館やプラザなど）で学校に行きにくい子どもの場所が作れるとよい
- ・ 公園や運動場などボールを使って遊べる場所を増やす
- ・ 中高生の学習の場
- ・ 遅い時間まで開いている場所
- ・ 子ども食堂
- ・ ボール遊び、花火ができる公園
- ・ スケートパークの設置
- ・ 低所得でも学べる場所
- ・ 朝、登校前の居場所
- ・ 温かい朝食をみんなで食べられる場
- ・ 笑いや楽しい話ができる相手が見つかる場所
- ・ 学校に馴染めない子の居場所
- ・ 大人がいて、ふらっと立ち寄れる場所
- ・ 子どもが人とのかかわり方を学べる場
- ・ 学習についていけない子どもに丁寧に勉強を教えてくれるところ
- ・ 24時間いつでも子どもが逃げ込める場所

○ **必要な要素や条件について**

- ・ 温かい言葉をかける大人がいる
- ・ お金がかからないこと
- ・ ふらっと行っても受け入れてくれる
- ・ 他の人の目が気にならない
- ・ ありのままの自分を受け入れてくれる
- ・ 見守ってくれる大人の目がある
- ・ 専門家(遊び方、習いごと)がいる
- ・ 干渉され過ぎない
- ・ 未就学児を持つ母親へのケア

- ・ 地域に密着したクラブ活動
- ・ WiFiがある
- ・ 歩いて通える
- ・ ナイターがある
- ・ 多様性を認めること
- ・ 暑さ、寒さをしのげる、安心できること
- ・ 水分が取れる場所
- ・ 話を聞いてくれる人がいること
- ・ 声をかけてくれる地域の大人がいること